

「森林資源の循環利用システムの構築」

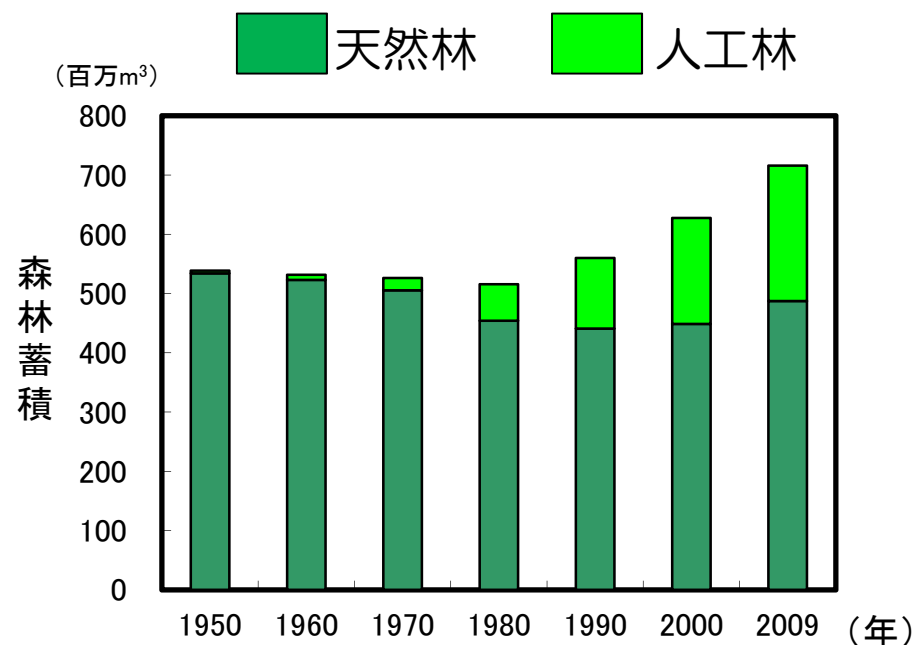
戦略研究

【「新たな住まい」と森林資源循環による持続可能な地域の形成】から
(北総研、林産試、林業試、工試)

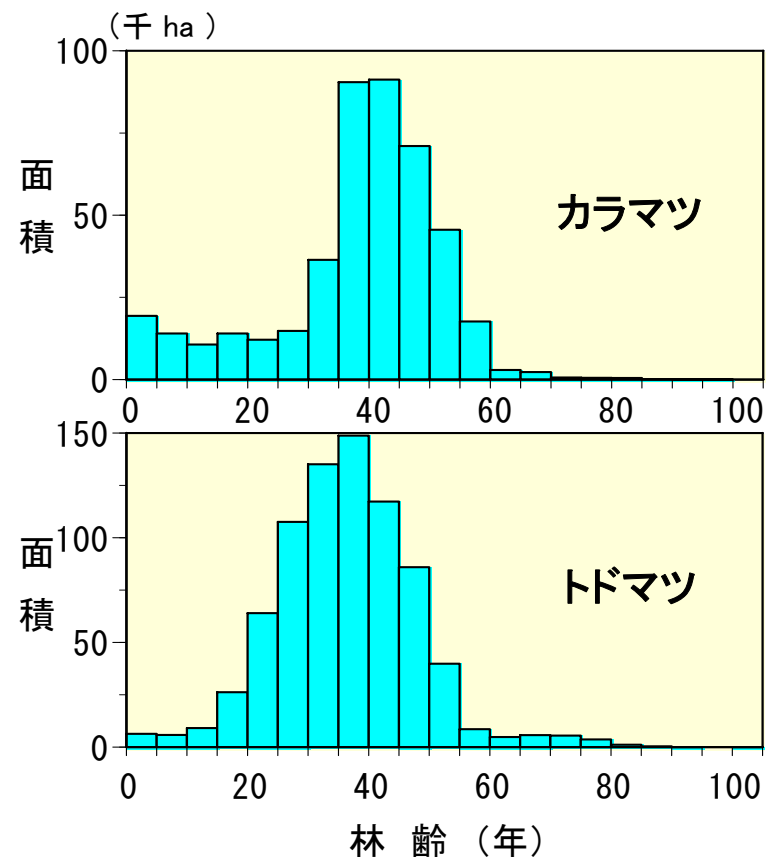
釧路森林資源活用円卓会議
平成23年9月16日

(地独) 北海道立総合研究機構 林業試験場
森林資源部 経営グループ 大野泰之

人工林の現状と課題



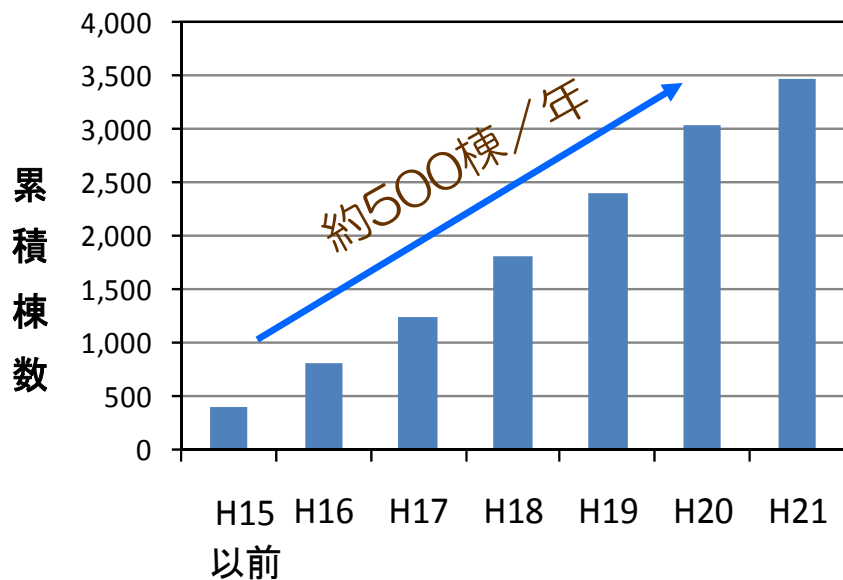
北海道における森林蓄積の推移



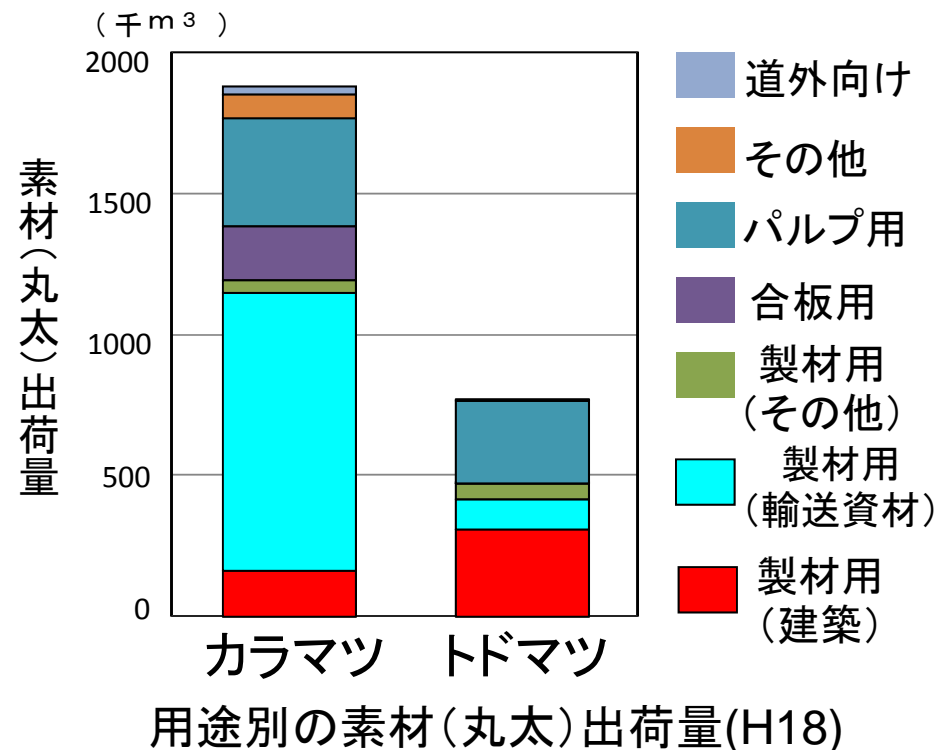
北海道の人工林の齢級分布

- 【現状】 カラマツとトドマツの人工林資源が充実
- 【課題】 資源の齢構成が顕著な一山型

人工林材の利用の現状と課題



道産カラマツ・スギ住宅の棟数の推移



【現状】 道産材を用いた住宅の建築棟数の伸びが順調

【課題】 カラマツの建築用材への利用は限定的

トドマツについても構造材への利用は少ない

【戦略研究の概要】

住宅部材への道産材の利用拡大に向けて・・・

北方建築
総合研究所

①道産材を用いた木造住宅の設計図面



②部材（構造材）投入量の算出



×（年間着工床面積）

林産試験場

③部材の年間所要量の推定



木取り・歩留まり

④建材に必要な径級別の丸太所要量の推定



供給の持続性の検討

林業試験場

⑤地域スケールでの人工林資源量と出材量の予測

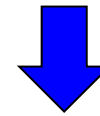
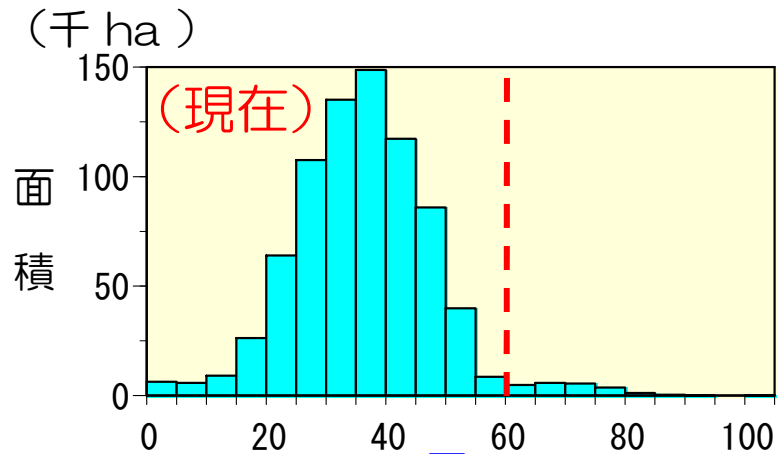
・一般材丸太・パルプ丸太の径級別の出材予測



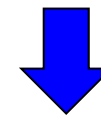
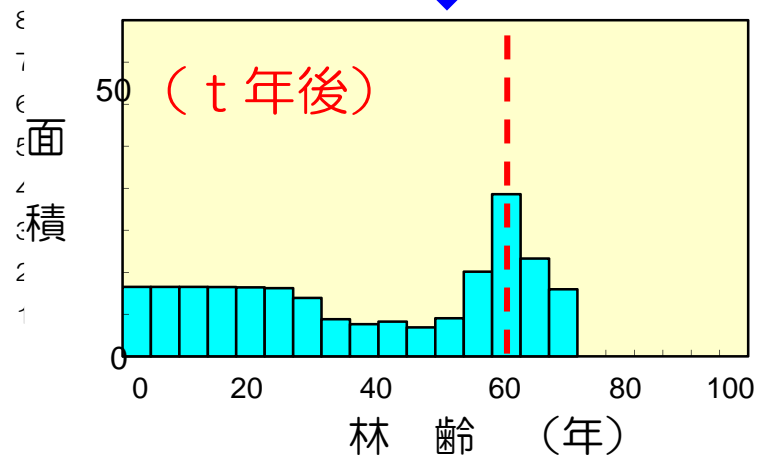
地域の人工林資源管理に展開

なぜ、一般材・パルプ別の出材予測が必要か？

- 資源の持続的な利用を図るため、人工林の伐採時期が延長される可能性が大（長伐期化）



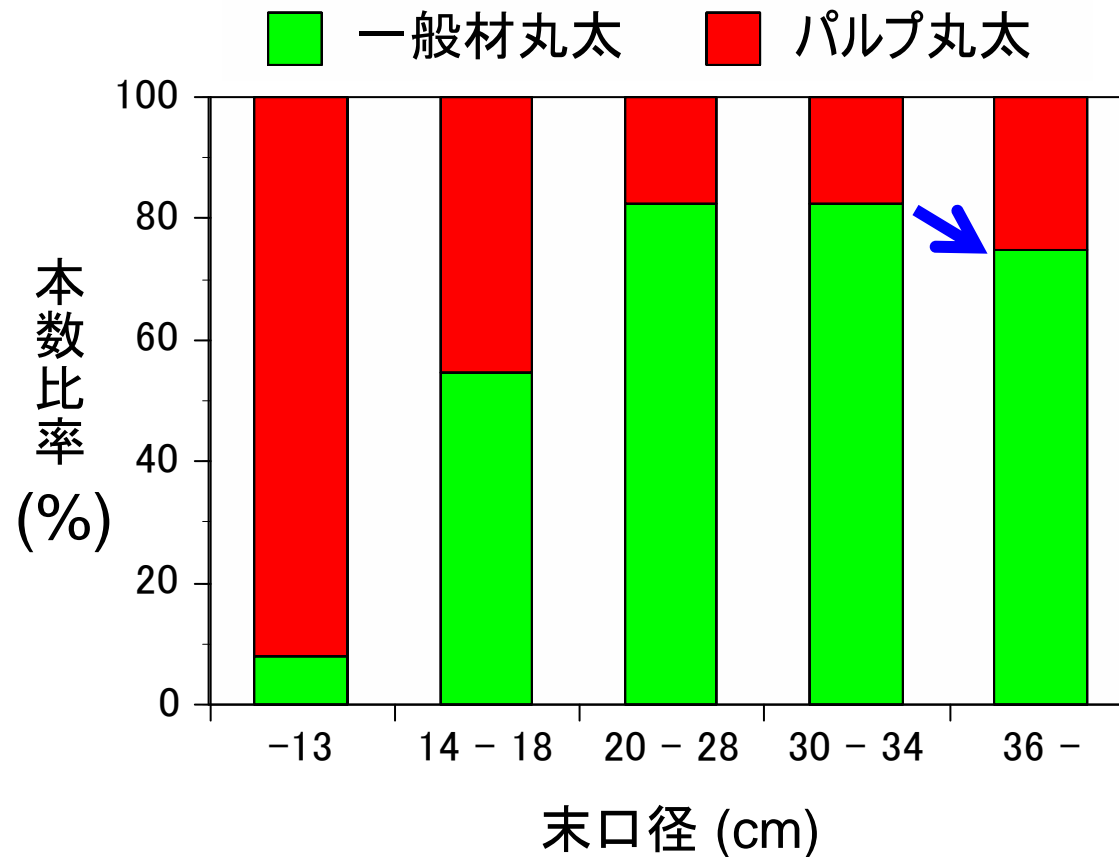
材質低下への懸念



量だけでなく質も含めた
出材予測が必要

トドマツ人工林の齢級分布

末口径別の一般材丸太・パルプ丸太の本数比率 (トドマツ人工林)



道有林課より
データ提供

- 一般材の比率は末口径30cm前後で最も高い
- 末口径36cm以上の丸太では、一般材の比率が緩やかながら低下

今後の調査予定とお願い

- 一般材丸太・パルプ丸太別の出材予測を地域ごとに行うため、カラマツ、トドマツ人工林からの出材内容調査を委託したいと考えております。



- つきましては、この調査の受託についてご検討して頂けますようお願い申し上げます。